

郷土紹介



江戸時代、用賀村と世田谷村との村境をなしていた津久井往還（今の世田谷通り）は、江戸と相模の国を結ぶ大切な道でした。この道は登戸の渡しで多摩川を越え、遠く甲州の黒駒まで続いていたので、登戸道とか黒駒道とも呼ばれていたとの事です。

この道は現在の上用賀二丁目、馬場公苑の北側で品川用水堀を木の橋で渡っていました。そして、今から約二百年前、寛政六年（1794）この橋が石の橋に架け替えられた際、世田谷村の宇田川政右衛門や、用賀村の沢田善平治等が願主とな

話し方コンクールが地域に果たす役割

話し方コンクール
審査委員長 仁科淑郎

用賀・瀬田両中学校の生徒が参加するこのコンクールは、今年で十八回目です。区で最初にこの会を作ったのは、現相模連絡会長の、鈴木武一さんだと伺っております。

感謝

現在、各地区で中学生が参加する行事が増えています。お祭やバザーなど物を通してのものが多く思うに思っています。

しかし、この会には中学生が完全な主人公の知的な活動で、地域の人の心への心のふれあいを深め、豊かな人間関係を築くことに大いに貢献しているのではないかと思います。

って通行の安全を願い、石橋供養塔を建てました。その石塔には、当時、この橋を利用した百を超える村々の名前が刻まれています。

用賀村の人々は、この橋をつぎたばしと呼んでいました。村の北の橋と云う言葉が訛ったものと思われまふ。

そして、大正三年（一九一四）、この橋は再び改修され、橋の脇に道標を兼ねた新たな石標が建てられ、橋の名前は北見橋と刻まれました。

今、品川用水堀も橋も無くなり、二つの石塔は経堂五丁目にある長島大根公園内に移設されています。



（飯田）

選ばれた生徒ではありませんが、社会を鋭く観て、自らの生き方を模索している中学生に出会えて、ごわやかな気分になります。

発表の内容も個性的で、中学生の驚くべきメッセージや叫びも聴き取れ、今の中学生を知る上で、またなによい機会となります。

現在、青少年地区

委員会、中学校、用賀出張所の職員の方々の多大なご尽力があります。これから、家庭では味わい知ることのできないこの発表会を用賀地区の知的財産、文化として、地域ぐるみで育むために、ぜひ一度会場にお越しくださいと思っております。



庭にキビタキ

笠井清二

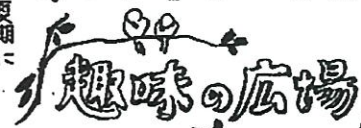
今年の五月十日庭にキビタキと言う美しい野鳥が初めて来て囀った。ほぼ五十年近くこの地でお世話になっているがキビタキにお目

に掛ったことは未だなかった。日本全域で記録されている野鳥は五百余种だが、

その中で美しく声も良い野鳥としては昔から一級にはオオルリ・コマドリ・キビタキを三名鳥とする。

何れも南方で越冬し夏期に日本の山野に帰って来て繁殖する渡り鳥である。

新緑の頃の探鳥会では遠くに囀りを聞き、姿をかいま見て歓声を上げる人気のある鳥達である。黄色が鮮



やかなキビタキの雄一羽が何故か庭の椿の枝先に現われ、まだ本調子ではないぐすり鳴きを聞いた。初めは我が目と耳を疑ったが間違いはなく春の渡りの途中らしく、数日間滞在して消えた。

数年前の宮中晩餐会の時の米國大統領のご挨拶の中に引用されていた江戸時代の桶屋の和歌「春の来て、軒返からぬ椿に鳴きし時」そのものの感懐でした。

最近秋の渡りで南方への帰途又立寄ってくれるものと思い、秋は囀らない苦だが姿だけでもと毎日庭を眺めて楽しんでる。これも世田谷の環境が改善された兆しと思っている。

スポーツ

第一回ふれあいラリー

まつり99を開催します
11月27日（土）雨天の場合は28日（日）午前10時から京西小学校で行われます。石標めぐりラリーのほか遊びのコーナー、模擬店、抽選会など、楽しい催しがいっぱいあります。

ラリーへの参加者には、記念品もあります。誰でも参加できますので、親子でお孫さんと、楽しい一日を過ごしてみませんか。
（ラリーの受付は正午まで）
用賀駅周辺の放車自転車を集中的に撤去しています
10月25日から来年の3月まで、まちの安全をまもるため、用賀駅周辺をモデル地域として、放置自転車等の撤去を行っています。



例年より遅れぎみの紅葉も終り、あとひと月余りです。層が変れば二〇〇〇年、コンピーターの傑作曲で、交通や電気、水道までも止まってしまうかも知れないとか。何だか私たちは冷たい機械に管理されて、生かされているような感じがしてなりません。

「支え合いと...いい言葉ですね。もっと心のかよ、た、温かい、人間らしい生活をしたいものです。」

『生涯現役』：先ずは元気に明るくいきましよう。